



# 資料館 だより

目次 ▶ ①…企画展 ②…事業報告 ③…事業予定 ④…東京 2020 パラリンピック聖火リレー採火式、開館カレンダー

## 新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様にとりまして、輝かしい一年でありますことをご祈念申し上げます。  
 本年も皆様に親しまれ、愛される郷土資料館を目指して参りますので、是非、ご来館ください。

郷土資料館 職員一同

## 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

- 感染の状況によって掲載のイベントが中止になることがあります。
- 発熱や咳など風邪のような症状がある方のご来館・ご参加はご遠慮ください。
- ご入館・ご参加時には三密を避け、マスクの着用をお願いします。
- ご入館時に緊急時の連絡・確認等のため、連絡先などのご記入についてご協力をお願いします。
- 感染防止のため、手指の消毒の徹底をお願いします。
- 館内での密集を防ぐため、一時的に入場制限をさせていただく場合があります。

## 企画展

事業報告

## 学校法人鶴岡学園創設80周年記念プレ企画展 「北海道文教大学展 ～創設者・鶴岡夫妻の足跡をたどる～」

10月23日(土)から12月19日(日)まで郷土資料館特別展示室で北海道文教大学展を開催しました。北海道文教大学は史跡カリンバ遺跡の隣にあります。平成11年に恵庭に開校した唯一の私立大学で、令和3年には付属高校も開校しました。大学等を傘下に持つ学校法人鶴岡学園が来年創設80周年を迎えることから、1942年創設の北海道女子栄養学校に始まる学園の歴史を鶴岡夫妻が歩んだ足跡と共に紹介する展示を行いました。期間中

はクイズラリーも行われ、全問正解者には前半が書籍「鶴岡トシ物語」、後半が漫画「トシさん

が行く！」がプレゼントされ、好評を博しました。

▼展示の様子



# 事業報告

- 8月** ●1日… アイヌ文化マスター事業② ●21日… カリンバまつり ●～22日… 企画展「漁川と人々の暮らし」
- 10月** ●2日… カリンバ土曜講座③ ●16日～17日… アイヌ文化マスター事業④  
●23日～12月19日… 「北海道文教大学展」
- 11月** ●7日… アイヌ文化マスター事業⑤ ●14日… 第8回カリンバ講演会
- 12月** ●5日… アイヌ文化マスター事業⑥ ●18日… カリンバ土曜講座② ●18日… アイヌ文化マスター事業③

## 第8回カリンバまつり

8月21日

8月21日(土)に毎年恒例のカリンバまつりを郷土資料館で開催しました。午前中は滑石の勾玉作りを行い、小学生の親子など13名が参加しました。午後は北海道文教大学共同研究『ENIWA 学』の代表である加藤裕明教授が中心となり、8名の参加者がベンガラ染め体験を行いました。体験は染色家の橘内美貴子さんが指導し、文教大学の教員や学生10名がアシスタントを努めました。ベンガラで染めた長さ10mの布10枚は今後朗読劇や展示に使用されます。



▲ベンガラ染め体験

## 漁川と人々の暮らし

7月24日～8月22日

恵庭の母なる川「漁川」に着目し、人々の暮らしとどのように関わってきたのか残っている記録をもとに歴史を追ってみました。その語源は、サケが産卵するとこ

ろという意味を持つ、アイヌ語のイチャン(Ichan)から来ています。その名の通り、かつてはたくさんサケが遡上したそうです。

漁川は、古くは江戸時代の絵図や松浦武四郎の紀行文等にイザリ・シママップという地名とともに登場し、蝦夷地では数少ない日本海から太平洋へ通り抜けるルートの中にあっただことから、この一帯が交通の要衝となり得たことがうかがわれます。

また、サケ漁の他、豊富な森林資源の移送手段としての木材の流送、急流を生かした水力発電、農業用水・飲料水の供給などいつの時代においても生活に密着していました。一方で、度重なる漁川の氾濫による水害に見舞われ、明治時代にすでに村民の人力による堤防の設置工事、昭和の大規模な流路の切替工事などあらゆる場面で市民生活と深くかかわってきたことがわかりました。

会期中、市外の方に入館自粛していただくなど、新型コロナ感染拡大防止措置をとりながらの開催でしたが、そうした中でも多くみなさまに足を運んでいただき、漁川と恵庭の関わりをご理解いただくことができました。



▲展示の様子

## 第8回カリンバ講演会

11月14日

11月14日(日)午前に「5世紀後半と8世紀の『恵庭』への移住者—須恵器・土師器と分割礫から見た恵庭の古代—」と題して宮塚文化財研究所の宮塚義人氏にご講演をいただき、恵庭市民会館の大会議室には47名の参加者が集まりました。宮塚さんは昔の航空写真から恵庭の旧地形を復元し、出土遺物などから5世紀後半には本州からの移住者が恵庭に来てコメ作りに挑んだのではないかと大胆な仮説をお話しされ、参加者の方々も興味深く聞き入っていました。



▲講演会の様子

## アイヌ文化マスター育成事業

恵庭市は国のアイヌ政策推進交付金を利用して中高生がアイヌ文化を学ぶ「アイヌ文化マスター育成事業」を実施しています。今年度は中学生4名が7月から12月まで5回の講座等を行いアイヌ文化体験や学習をしています。今回は10月16・17日に実施した釧路市阿寒での研修を紹介します。往路では途中陸別町の史跡ユクエピラチャシ跡と出土資料を見学しました。陸別町教育委員会の大鳥居学芸員に解説を受け、チャシの役割やアイヌの人々の考え方などを学びました。翌日はアイヌガイドによる半日ツアーに参加し、アイヌが利用

した森の樹木や植物の解説を聞き、アイヌ食体験や木彫り体験なども行いました。令和4年2月までに「アイヌ語を学ぶ」などあと3回の講座を実施する予定です。

▼チャシ跡を見学する様子



## 事業予定

1月 ● 4日～27日…令和3年新収蔵資料展 ● アイヌ文化マスター事業⑦

2月 ● 5日～3月13日…ひな人形展 ● アイヌ文化マスター事業⑧

## 令和3年新収蔵資料展

令和3年中に市民のみなさまよりご寄贈いただきました34件264点の資料の中から生活用具を中心に約70点をご紹介します。

写真は、アメリカのシンガー社製工業用ミシンです。1920年代に製造されたものと思われます。島松仲町にあった浮田(うきた)靴店で、昭和31年の創業時から平成17年までの約50年間にわ

たって、寄贈者の父 浮田 學さんが革靴の製造の際に使用していました。一般の革靴の他、恵庭北高校生徒のスケート靴の製造にも取り組んでいたそうです。

寄贈者 島田 恵美子さん





令和3年8月13日に東京2020パラリンピック聖火リレー「恵庭市の火」採火式が開催されました。この採火式は恵庭市子ども発達支援センターを会場に、恵庭の子どもたちと一緒に行いました。採火のために使った火お

こしの道具は「マイギリ式」と呼ばれるもので、棒状の木の先端を板状の木の上で回転させ、発生した摩擦熱を利用して火をおこすもので、この道具を上手に使うためにはコツが必要となります。参加した子どもや保護者たちは慣れない道具に戸惑いながらも徐々にコツをつかみ、楽しそうに火おこしを行いました。みんなの力でおこした火は、聖火台に見立てた縄文土器に集めて炎とし、そこからランタンに火を移し

て保存されました。このランタンの火は「恵庭市の火」として、8月16日にオンライン開催された北海道集火式で道内各地で採火された火と一緒にまとめられ「北海道の火」としてパラリンピック開催地の東京へ送り出されました。



## 郷土資料館 開館カレンダー



### 1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

### 2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

### 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

- 毎週月曜日が **休館日** です。  
…▶ただし、月曜日が休日の場合、**開館日**です。その場合、振替となり火曜日、水曜日が **休館日**となります。
- 休日は**開館日**とし、翌日が **休館日**となります。  
…▶ただし、土曜日、日曜日にあたる場合は、**開館日**です。
- 毎月最終金曜日は、資料整理のため **休館日**となります。
- 年末、年始の **休館日**は、12月28日～1月3日です。

### 休館日の詳細



### 編集後記

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産への登録が決定しましたね。千歳のキウス周堤墓群はここ資料館から道なりに12kmと非常に近く、ついでに立ち寄る人が増えるのではないかと期待しています。(よ)

資料館だより No.56 2022年1月4日発行

発行 恵庭市郷土資料館 住所 〒061-1375 恵庭市南島松157-2 TEL/FAX 0123-37-1288

開館時間 午前9時30分～午後5時 入館料 無料